Ｒ６年度

環境経営レポート

（Ｒ５年８月～Ｒ６年７月）

発行 ： R6年　 9月　19日
改定 ： R6年　 11月　 8日

IDEA.ACTION & SAFETY
深田工業株式会社

豊田市御船町井料63番地
(0565)-45-1234

《 目 次 》

（1） 組織の概要 ･･ Page. 1

（2） 対象範囲、 ･･ Page. 1
レポートの対象期間 及び 発行日

（3） 環境経営方針 ･･ Page. 2

（4） 環境経営目標 ･･ Page. 3

（5） 環境経営計画 ･･ Page. 4

（6） 環境経営計画に基づき実施した取組み内容 ･････ ･･････････････････ Page. 5
実施体制

（7）−1 環境経営目標の実績 ･･････････････････････････････････････ Page. 6

（7）−2 環境経営計画の取組結果とその評価 ･････････ ･････････ Page. 7

（7）−3 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画 ･･･････････････ Page. 10

（8） 環境関連法規などの遵守状況の確認 ････････････････････････ Page. 12
及び 評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

（9） 代表者による全体の評価及び見直し･指示 ･･････････････････ Page. 13

(1)組織の概要

1） 事業所名及び代表者　　深 田 工 業 株 式 会 社
代表取締役　中村 浩克

2） 所在地　　〒470－0371
愛知県豊田市御船町井料63番地

3） 環境管理の責任者及び連絡先
環境管理の責任者　　中村 浩克
連絡先　電話　0565-45-1234
FAX　0565-45-7300
Email　nakamura@fukada-industry.co.jp

4） 事業内容　　製缶付帯工事の設計・製作・施工

一般建設業　　許可番号 ： 愛知県知事 許可 （般-28） 第58678号

5） 事業規模
（1） 売上高　　1．7 億円 （R5年（前年） 実績）
（2） 本年度 従業員数　　合計 19 人
（正従業員14人，パート3人，構内常駐業者2人）
（3） 敷地面積　　4，900 ㎡

(2)対象範囲

1） 対象範囲（認証・登録範囲）　　深田工業株式会社　全組織

2） 対象となる活動　　製缶付帯工事の設計・製作・施工

3） レポート対象期間　　R5年 8月 1日 ～ R6年 7月 31日

4） レポートの発行日　　レポート発行日 ： R6年 9月 19日

(3)環境経営方針

環 境 経 営 方 針

IDEA.ACTION & SAFETY
深田工業株式会社

環 境 経 営 理 念

当社は自動車生産ライン周りの付帯設備の設計製作から現地施工までを主な事業とし、その事業活動において、環境保全を重要な課題に位置付け、環境への負荷を削減する為に、環境関連法規及びその他の環境関連要求事項を守り環境経営方針を定め、CO2 排出量の削減などの取り組みを、社是にも掲げる『皆で知恵を出し合い、工程改善を図る』を念頭に 行って参ります。

行 動 指 針

1. 製品設計においては、環境保全及び汚染の予防に配慮した設計活動を推進します。
2. ゴミの排出量を減らし、ゴミ分別によるリサイクルに努めます。
3. 電気使用量の削減、化石燃料使用量の削減、水使用量の削減に努めます。
4. グリーン購入を推進します。
5. 従業員に対する環境教育を計画的に実施し、環境保全に対する意識の向上を図ります。
6. 化学物質使用量の把握と管理の充実に努めます。
7. 環境経営方針は、全ての従業員に周知し、環境経営の継続的改善を進めます。

平成20年4月1日
平成26年1月1日　改定1
令和元年8月1日　改定2

深 田 工 業 株 式 会 社

代表取締役
中 村 浩 克

(4)環境経営目標　　（R6年度 ･･･R5年8月～R6年7月）

	目　標　項　目	基準数値 H29年度	目　標　値 R6年度	R7年度	R8年度
1	現地工事に於ける火気レス工事率 （自社設計･施工の新設物件） ※現地工事時の環境への配慮	対象物件の 90%	対象物件の 90%以上 維持	対象物件の 90%以上 維持	対象物件の 90%以上 維持
2	単純焼却ゴミの排出量の削減 （製品重量 **1ton 当り**）	基準年度 250 0.78 (kg/ton)	基準年度の 2．0%減	基準年度の 2．0%減	基準年度の 2．0%減
3	排出量 総数	**58,213** (kg-CO2)	12．2%減 **51,111** (kg-CO2)	15．4%減 **49,248** (kg-CO2)	15．4%減 **49,248** (kg-CO2)
	CO2 排出量削減 （製品重量 **1ton 当り**換算値で評価）	**181.0** (kg-CO2/ton)	12．2% 減 **158.9** (kg-CO2/ton)	15．4% 減 **153.1** (kg-CO2/ton)	15．4% 減 **153.1** (kg-CO2/ton)
	① 電気使用量の削減 （製品重量 **1ton 当り**）	基準年度 90,479 Kwh 281.3 (kWh/ton)	基準年度の 10．0%減	基準年度の 10．0%減	基準年度の 10．0%減
	② 化石燃料の削減 ガソリン消費量 （製品重量 **1ton 当り**）	基準年度 2,717 ℓ 8.45 (ℓ/ton)	基準年度の 40．0%減	基準年度の 40．0%減	基準年度の 40．0%減
	② 化石燃料の削減 軽油　消費量 （製品重量 **1ton 当り**）	基準年度 2,732 ℓ 8.50 (ℓ/ton)	基準年度の 3．0%減	基準年度の 30．0%減	基準年度の 30．0%減
4	水使用量の削減　（節水 （従業員1人当り年間使用量）	基準年度 111 5.29 (m^3/人)	基準年度の 2．0%減	基準年度の 2．0%減	基準年度の 2．0%減
5	グリーン購入への取組　　注1） 事務用品費のエコマーク占有率	エコマーク 占有率 90%	エコマーク 占有率 90%以上	エコマーク 占有率 90%以上	エコマーク 占有率 90%以上
6	社内環境経営 教育の実施 （定期教育）	1回/年間	1回/年間	1回/年間	1回/年間
7	化学物質使用量の把握（年間量まとめ）	使用量の確認 （データプロット/ 毎月）	使用量の確認 （データプロット/ 毎月）	使用量の確認 （データプロット/ 毎月）	使用量の確認 （データプロット/ 毎月）

※基準年度（H29年度）　　製品出荷重量 ･･･････････321．6ﾄﾝ
水使用量　基準年度･･･････ 21人

※ 購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力の平成28年度の調整後排出係数 0．480 kg-CO2/KWh による。

※ 単純焼却ゴミは産業廃棄物の 廃プラのみ を示す。
その他の産廃系ゴミ・一般ゴミは、処理時の熱回収やリサイクルなど再資源化を鑑み、目標項目からは除外してますが品目毎の排出量は、把握していきます。

※ 灯油 及び LPGの使用は、僅少量の為、量的把握までとし、目標項目とはしていません。
負荷の自己チェック表の中で、CO2換算値へは組入れており、CO2排出量削減の全体で評価しています。

基準年度（H29年度）は、567ℓ の灯油使用量、7kg のLPG使用量があります。

注1）グリーン購入への取組に関する基準値は、平成29年度実績ではなく、過去からの経緯を勘案し90%とする。

(5)環境経営計画　（取組期間　R5年8月～R6年7月）

1. 現地工事に於ける火気レス工事の推進 （現地工事時の環境への配慮）　【担当:柏野】

自社で設計する新作製品において、現地施工時に火気(アーク熔接・ガス溶断)を使用せずにボルトUP工事可能な構造検討を推進する。（※CO2 排出量削減活動の一環・火災要因リスクの低減）

① 対象条件より該当する工事の抽出と火気使用の有無をチェック。
② **達成率90%水準の維持**を目標に、構造検討を設計計画段階から今後も継続的に推進していきます。
③ 該当する鋼構造物に於いて、ボルトUPによる工事法を常に検討する。
④ 火気使用なしでの 工事施工検討を、設計、製造部間で都度実施する。

2. 廃棄物排出量の削減　【担当:柏野】

① 各分別BOXの整備状況の確認。
② 一般ごみの燃えるごみ・プラごみとの分別。 外部からの持ち込みをしない様、従業員へ呼び掛けをする。
③ リサイクルの推進。再生資源として出せれるものの分別を徹底。
④ 産業廃棄物と一般ゴミとの分別徹底推進。(産廃系プラごみ ・ 鉄 ・ アルミ ・ 木くず ・ 混合物etc.)
⑤ 産業廃棄物について年度を越えて社内で保留する量の削減　定期的な　処分を業者へ依頼する。

3. CO2 排出量の削減　【担当:川崎・中村】

（1） 電気使用量の削減
① 昼休みの消灯。長時間外出時は、PCの電源OFFを推進する。
② エアコンフィルター等の定期清掃。(定期チェックを忘れない様、カレンダーへマーキング)
③ 冷房必要期間の短縮への取り組み。(熱中症予防への対応は必要 etc.)

（2） 化石燃料の削減
① エコ運転の推進。「交通安全スリーS運動(ストップ・スロー・スマート)」 エコ運転ポスター掲示等。
② 定期的な点検整備の推進。（タイヤ空気圧のチェック）
③ 車内4Sの実施を呼びかけ。
④ 灯油　及び　LPGは、使用量は少量の為、量的把握までとし、CO2換算値(負荷の自己チェック表)へは組入れCO2削減の全体で評価する。 単独の 削減目標からは、除外。

4. 水使用量の削減(節水)　【担当:川崎】

① 節水の呼びかけ。（随時）
② 水道配管からの漏れ定期チェックの継続。(カレンダーへマーキング)
③ 水漏れ、故障等の情報の吸い上げ。
④ 洗車時の取り決め、出しっぱなし厳禁の呼び掛け実施。

5. グリーン購入への取組　【担当:古井】

①『 まずはエコマークの有無をチェックする 』を実施。優先的購入をする。
② 事務用品購入費に占めるエコマーク用品の比率の把握。

6. 環境経営 教育の実施　【担当:中村】

① 社内教育の実施。（1回/年、実施。業務スケジュールとの調整をし、全員が参加できるように計画。）
（1） **昨年度の『環境経営レポート』** の内容報告。

（2） 社内活動を進めるにあたっての、お願い事項。

② 4S活動の実施。（工場内、敷地内清掃）

7. 化学物質使用量の定期的把握　【担当:中村】

① 年間の塗料使用量把握。物質毎の量的換算の継続。
② SDSシートの整備。

8. 環境関連法規の遵守　【担当:中村】

① 対象となる環境関連法規の内容を再チェック。
② 関連法規遵守状況のチェック。
③ フロン排出抑制法に基づく第1種特定製品(空調機器)の簡易点検の実施。
④ 浄化槽法、 保守点検　4回/年、定期清掃　1回/年、 法定検査(11条検査)　1回/年の実施。

(6)環境経営計画に基づき実施した取組み内容

1. 現地工事に於ける火気レス工事の推進 （現地工事時の環境への配慮）

- 対象条件に該当する実施済み工事の抽出と火気使用の有無のチェックし、リスト化。
- 新設・設計の鋼構造物に於いて、ボルトUPによる工事法の検討。

2. 廃棄物排出量の削減

- 一般ごみの燃えるごみ・プラごみとの分別の徹底。 社内への呼び掛け実施。
- リサイクルの推進。（循環資源・・・紙・段ボール・ペットボトル）再生資源としての仕分けを徹底。
- 産業廃棄物と一般ゴミとの分別徹底。（産廃系プラごみ・鉄・アルミ・木くず・混合物etc.）

3. CO2 排出量の削減

（1） 電気使用量の削減
- 昼休みの消灯。長時間外出時は、PCの電源OFF。
- エアコンフィルター等の定期清掃。

（2） 化石燃料の削減
- エコ運転の推進。朝礼などで随時、呼び掛け。
- ライトバン、トラックの定期的な点検整備の推進。（タイヤ空気圧のチェック）
- 化石燃料の使用量把握。（灯油 及び LPG の量的把握を含む）

4. 水使用量の削減（節水）

- 節水の呼び掛け。（随時）
- 水道配管からの漏れ定期チェックの実施。
- 洗車時の注意呼びかけ。

5. グリーン購入への取組

- 事務用品購入費に占めるエコマーク用品費のプロット。

6. 環境経営 教育の実施

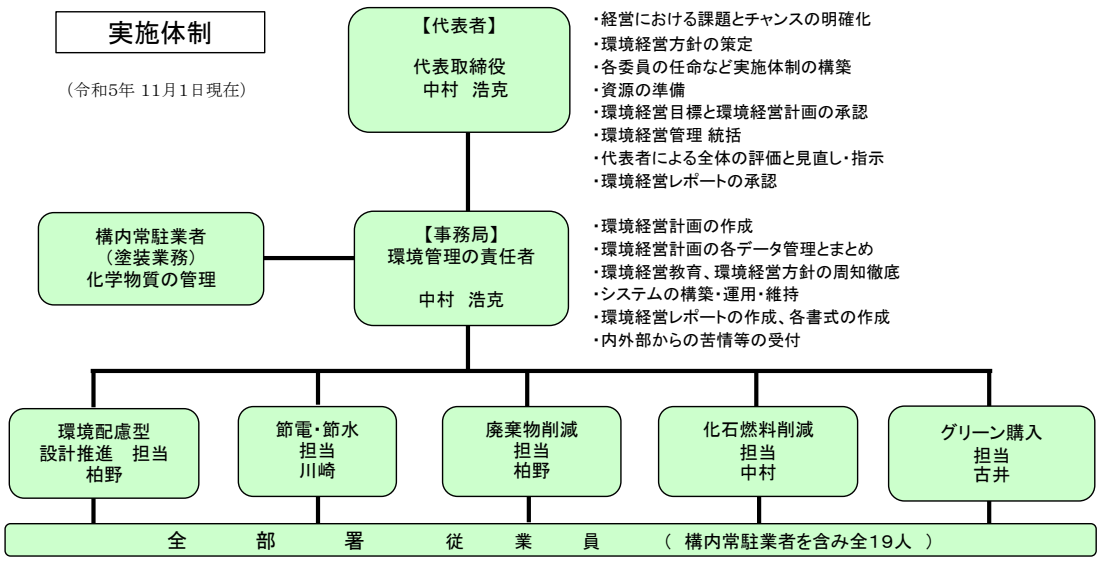
- 社内教育の実施。 環境経営レポートの内容報告。
- 金属スクラップ廃棄時の分別。鉄・アルミ・一斗缶は、分けることなど注意事項伝達。
- 4S活動の実施。（工場内、敷地内清掃）

7. 化学物質使用量の定期的把握

- 年間の塗料使用量把握。物質毎のDATA取り。

8. 環境関連法規の遵守

- 関連法規遵守状況のチェック。
- フロン排出抑制法に基づく第1種特定製品（空調機器）の簡易点検の実施。
- 浄化槽法、保守点検 4回/年 ・ 定期清掃 1回/年 の実施
- 浄化槽法定検査（11条検査）の計画と実施。 定期検査として年間登録。



※ 取組の対象となる組織は全部署。（構内常駐を含む）

(7)-1 環境経営目標の実績 （R6年度 ･･･R5年8月～R6年7月）

内 本年度実績 総数（整数で記載）

○････目標達成
×････目標未達成
△････基準年度より改善されている

	目標項目	基準数値 H29年度	R6年度 目標値	R6年度 実績（基準年度比）	評価
1	現地工事に於ける火気レス工事 （自社設計･施工の新設物件） ※現地工事時の環境への配慮	対象物件の 90% 以上	対象物件の 90% 以上 維持	**100** （%）	○
2	単純焼却ゴミの排出量の削減 **（製品重量 1ton 当り）** R6年実績 190 Kg	基準年度 250 kg 0.78 （kg/ton）	0.76 （kg/ton） 2．0% 減	**0.46** （kg/ton） （41% 減）	○
3	排出量 総数	58,213 （kg-CO2）	12．2%減 51,111 （kg-CO2）	28．7%減 **41,475** （kg-CO2）	○
	CO2 排出量削減 （製品重量 **1ton 当り**換算値で評価）	181.0 （kg-CO2/ton）	158.9 （kg-CO2/ton） 12．2%減	**100.1** （kg-CO2/ton） （44．6% 減）	○
	① 電気使用量の削減 **（製品重量 1ton 当り）** R6年実績 64,339 Kwh	基準年度 90,479 Kwh 281.3 （kWh/ton）	253.1 （kWh/ton） 10．0% 減	**155.2** （kWh/ton） （44．8% 減）	○
	② 化石燃料の削減 ガソリン消費量 **（製品重量 1ton 当り）** R6年実績 1,379 ℓ	基準年度 2,717 ℓ 8.45 （ℓ/ton）	5.07 （ℓ/ton） 40．0% 減	**3.33** （ℓ/ton） （60．5% 減）	○
	② 化石燃料の削減 軽油 消費量 **（製品重量 1ton 当り）** R6年実績 2,346 ℓ	基準年度 2,732 ℓ 8.50 （ℓ/ton）	8.25 （ℓ/ton） 3．0% 減	**5.66** （ℓ/ton） （33．0% 減）	○
4	水使用量の削減 （節水） **（従業員全19人 1人当り年間使用量）** R6年 117 ㎥	基準年度 111 5.29 （m^3/人）	5.18 （m^3/人） 2．0% 減	**6.16** （m^3/人） （16．4% 増）	×
5	グリーン購入への取組 事務用品費のエコマーク占有率UP	エコマーク 占有率 90%	エコマーク 占有率 90%以上	エコマーク 占有率 **93.7%**	○
6	社内 環境経営教育 の実施	1回/年間	1回/年間	実施1回	○
7	化学物質使用量の定期的把握	使用量の確認（データプロット/毎月）	使用量の確認（データプロット/毎月）	使用量の把握 年間まとめ	○

※ 購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力の平成28年度の調整後排出係数 0．480-CO2/KWh による。

※ 本年度（R6年度） 製品出荷重量･･･････････････**414．5 ﾄﾝ** （基準年度比 28．9%増）

水使用量 従業員数･･･････････････**19人**

※ 上記以外のCO2発生要因としてR6年度は、**536 ℓ の灯油使用量、1．45 ㎏ のLPG使用量** があります。

(7)-2 環境経営計画の取組結果とその評価

1. 現地工事に於ける火気レス工事の推進 （現地工事時の環境への配慮）

対象条件である自社設計の新設物件は、**全3件**。件数としては昨年からは、半減であるが継続工事が主である。
工事総数そのものが、減少傾向にあり、また1件当たりの規模も拡大、単品製作案件が増加している。

《評価》

その内、現地施工時に火気を使用せず完遂した物件は **3件/3件中**（自社設計・新作製品が対象）であり
火気レス率は **100%** で、目標の 90% を 達成 することができた。

2. 廃棄物排出量の削減

《一般廃棄物》

一般廃棄物の各ゴミは、ほぼ分別できており、計量データのプロットも確実にできている。

《単純焼却ゴミ》

【社内定義付け】

一般廃棄物の各ゴミは、最終処分過程で **焼却熱回収もしくは再生利用** されるもので
当社より排出する中で単純に焼却だけで処理されるのは、**産廃系の廃プラ** のみとなっている。

本年度の排出量は、**190kgで**、製品重量1ton当りで **0．46kg**で 基準年度比**41．0%減** であった。

《エコキャップ運動》

ペットボトルキャップ回収活動。ペットボトル分別BOX横へキャップ回収ケース設置し継続。
ほぼ全数回収し、回収量のカウント（重量測定 ⇒ CO2削減値 換算）をした後
地域のリサイクルステーションへ としている。

社内のキャップ回収BOXの設置場所は全4ヶ所設定。

本年度の回収重量は、**3,935g** で 回収量としては増加。
CO2 削減換算値は **12,912g** であった。

※ 数量的な把握のみ実施

（※エコキャップ推進協会ポスター引用、常時掲示）

《使用済み用紙の裏紙利用 及び リサイクル推進》

- 社内で使用する帳票類は裏紙を流用することが、定着。（コピー機内にA4裏紙トレー、A3裏紙トレー常設）
- 単純に紙ごみとして廃棄せず、リサイクル化（廃品回収）へ出せれるものの仕分けの実施。
- 廃棄紙も日報用紙・メモ用紙他として利用できるものは選別し、必要な大きさにカット、使用しています。

3. CO2 排出量の削減

《 評価 》
CO2 排出量は、基準年度のH29年では 製品重量 1 ton 当たり **181. 0** (kg-CO2) で
本年度 R5年8月～R6年7月では **100. 1** (kg-CO2) で **44. 6%の減** で目標値に対しては
達成 であった。

（1） 電気使用量の削減

① 事務所室温の管理は温度計チェックにより エアコン **ON・OFF** をするように事務所従業員へ随時呼びかけを実施した。

② 『不在時消灯』・『消し忘れ注意』 表示。
終業時の工場内照明の消し忘れについて、最終退場者が確認することを朝礼時に全員へ徹底。

③ コピー機、PCプリンターのうち モノクロ印刷を推奨、必要時のみカラー。
長時間外出時のPCの電源はOFF、電気ポット類も 長期休暇前に **コンセントOFF** を実施。

④ 工場空調機・事務所エアコンのフィルターの定期的な清掃の実施。

《 評価 》
製品重量 1 ton 当たりの電気使用量は、基準年度のH29年では 281. 3 kWh で、これに対し
本年度 R5年8月～R6年7月では **155. 2 kWh** で基準年度比で **44. 8%減** であるが
本年度の目標値を **基準年度の10%減** としている為、本年度の目標に対しては結果、達成 となった。

年間の電気使用量累計で見た場合では、基準年度のH29年累計は **90,479 Kwh** で、本年度の使用量は **64,339 Kwh** で、**28. 9%減** であった。 年間の使用量としては、本年度は減少している。

（2） 化石燃料の削減

① 社有車の効率的運転の推進
・『 エコ運転 』の呼び掛けを継続的に実施。(エコ運転ポスター掲示による啓発活動)

「急加速、急停止、ムダな空ぶかしはやめよう！
いつも エコ運転 に心掛けましょう！！」 ・・・・・運転席へ継続表示

(交通安全活動とリンクした社内啓発 ＝**「交通安全スリーS運動 (ストップ・スロー・スマート) 」**)

② 定期的な点検整備の推進
・ 業務用車の整備状況フォロー。
・ タイヤ空気圧チェックの呼び掛け。(給油時にスタンドにて点検)
・ 定期的な車内4Sの実施。

《ガソリン消費量の削減》

製品重量 1 ton 当たりのガソリン消費量は、基準年度のH29年で 8. 45 ℓ で、本年度の
R5年8月～R6年7月では 1 ton 当たり消費量は **3. 33 ℓ** で、基準年度からは **60. 5%減** である。
昨年度、目標値を大きくクリアした為、本年度の目標を実績に沿って **40%減** を掲げていた。
その目標に対しては、達成 となった。

年間のガソリン消費量累計で見た場合では、基準年度のH29年累計は **2,717 ℓ** で、本年度の
累計では **1,379 ℓ で、49. 2% の減少** であった。

《軽油消費量の削減》

製品重量 1 ton 当たりの軽油消費量は、基準年度のH29年で 8. 50 ℓ で、本年度の
R5年8月～R6年7月では 1 ton 当たりの消費量は **5. 66 ℓ** で、基準年度比で **33. 0%減** であった。
目標値に対しては、未達成 となった。

年間の軽油消費量累計で見た場合、基準年度の H29年累計は **2,732 ℓ** で、本年度の
累計では **2,346 ℓ** で、 **14. 1% 減** であった。

《灯油 及び LPG使用量の把握》

灯油の総使用量は、基準年度（H29年度）**567ℓ** に対し、本年度は、**536ℓ** で **5．5%減**。
総使用量は少量の減少しているが、昨年度と同等レベル量である。

LPGの総使用量は、基準年度（H29年度）**7kg** に対し、本年度は、**1．45kg** で **78．8%減** であった。
冬期に温水器を使用するのみであるため。

《化石燃料削減に関する全体評価
および 参考として製品重量ton当たりにしない年間消費累計のみのデータ比較から見た場合》

本年度の**製品重量そのものは、**基準年度比で **28．9%増**。

本年度の**年間使用量の累計を基準年度から比較**すると

電気使用量の**累計では 28．9%減。**

ガソリン消費量の**累計では 49．2%減。**

軽油消費量の**累計では 14．1%減** となっている。

※ 本年度は、製品重量（＝評価元単位）が基準年度から大きく増加、化石燃料の各項の消費累計では減少した為
いずれも 製品重量 1 ton当たり の換算値で 目標を大きく達成する現象となっている。

4． 水使用量の削減（節水）

① 水道配管 洩れチェック 点検表 にて3ヶ月毎点検の継続的実施。
② 事務所・工場の水道各部へ 「**節水 しましょう！**」 のラベルを貼り付け維持。従業員への呼びかけは随時実施。

③ 基準年度のH29年では水道使用量は 111 m^3 、従業員1人当り **5．29 m^3** で 本年度 R5年8月
～R6年7月で **117 m^3** 、従業員1人当りで **6．16m^3** で基準年度比で **16．4%増** で目標未達成であった。
（従業員数＋構内常駐の年間人数で換算）

《 評価 》
本年度の水使用量の評価としては × 、節水の呼び掛けは継続的に行います。
水漏れしている所がないか、水道各所のチェック、元メーターチェックは頻回に実施していく。

5． グリーン購入への取組

基準年度のH29年度の事務用品全体費に占めるエコマーク商品の比率 97．1% であるが、
過去の経緯を考えると、基準値は90%とするのが妥当と判断した。
R5年8月～R6年7月 の累計は **93．7%** で、目標値の90%以上はクリアできている。
購入する事務用品もほぼ固定化。新規に手配して行くものもエコマーク優先で選定しを進め
90%以上の水準を維持していく。データープロットは今まで通りとする。

6． 環境経営 教育の実施

① 社内教育を実施。（’24年 1月 15日）
・ 昨年度、更新審査時の 『環境経営レポート』 の内容報告
・『環境経営方針カード』 の携帯状況の確認。

② 週間進行会議や朝礼時に取組みにおけるお願い事項報告。

※ 4S活動の実施。
工場敷地 他の環境美化 （景観保全）

工場に隣接する道路横の
除草を実施。（1回/年）

工場横スペース他 除草作業 ’23-11月

7. 化学物質使用量の定期的把握

① 製品塗装で常時塗料を扱う作業者は構内常駐業者の **2名**、また当社の製造従事者数(常時雇用)も **9名** で **PRTR法の対象**とならない人数である。 **量的な把握は実施。**

② 製品塗装で使用する塗料のSDSシートの入手とPRTR法で該当する化学物質の再確認。
塗装仕様は客先より指示される為、量の削減をしていくことは難しい。
物質毎の年間使用量のデータ取りを継続的に実施。

③ 製品に対する使用量の定義の確認。
製品重量 1ton当り 塗料8．9ℓ使用≒7．5 kg(比重 x0．85) 、シンナーは塗料量の30% で各使用量を換算する。

④ 本年度(R5年8月～R6年7月)の取扱量 (年間取扱量1ﾄﾝ以上が法対象基準)

(1) トリメチルベンゼン ･･･ 0．31 ton
(2) トルエン ･･･ 0．01 ton
(3) キシレン ･･･ 0．02 ton
(4) エチルベンゼン ･･･ 0．01 ton

(7)-3 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

※ 目標値は、本年度の実績を踏まえ、次年度 (R7年度) 以降の 中期目標を維持とします。
※ 製品重量 1ton当たりとする評価換算は、従来通りとしています。
※ 環境経営計画での各取り組みは、継続して同一担当者で進めます。

1. 現地工事に於ける火気レス工事の推進 (現地工事時の環境への配慮)

【次年度の環境経営目標】
・ **達成率 90%水準 維持 を目標**とする。

【次年度の環境経営計画】
・ ボルトUPによる現地施工方法を設計者間で情報の共有化する。
・ 火気使用なしでの 工事施工法を 社内で検討する。

2. 廃棄物排出量の削減

《一般廃棄物》

【次年度の環境経営計画】
・ 各分別BOXの継続的な**整備**。
・ 一般ゴミの燃えるごみ・プラゴミとの分別の徹底。

《単純焼却ゴミ》

【社内定義付け】
一般廃棄物の各ゴミは、最終処分過程で **焼却熱回収もしくは再生利用** されるもので
当社より排出する中で単純に焼却だけで処理されるのは、**産廃系の廃プラ** のみとなっている。

【次年度の環境経営目標】
・ 単純焼却ゴミの産廃系プラゴミ量の削減に努める。**基準年度の2．0%を削減目標** に設定据え置き。

【次年度の環境経営計画】
・ 産廃系プラゴミと一般プラゴミとの分別状況を再確認していく。産廃系プラゴミ量の削減に努める。
・ 総量を把握し、負荷のチェックシートへ織り込みます。
・ **年度を越える産廃社内保留分を発生させないよう、定期的な処分計画** を立てる。

《エコキャップ運動》

【次年度の環境経営計画】
・ 分別回収の継続。
回収量のチェックと CO2 換算値 の把握も実施。
福祉的意義の賛否は別途議論とするも、分別してリサイクルするほうを優先。

《使用済み用紙の裏紙利用 及び リサイクル推進》

【次年度の環境経営計画】
・ A3の用済み紙(裏紙)も、使用できるものはカットして社内用帳票として、A4として流用する。
・ リサイクル(廃品回収)へ出せれるものの仕分け実施。

3. CO2 排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

【次年度の環境経営目標】
・ 次年度の目標を **基準年度の 10．0%削減 1ton当り** に 設定据え置き。

【次年度の環境経営計画】
・ 溶接機(＝電源)のデジタル式(省エネ効果)への更新。(老朽更新時に実施の為、未定。)
・ 事務所エアコンのフィルターの定期的清掃の実施。(チェックシート活用)
・ 冷房必要期間の短縮への取り組み。(熱中症予防への対応は必要 etc．)

（2） 化石燃料の削減

《ガソリン消費量の削減》

【次年度の環境経営目標】
・ 次年度の目標を **基準年度の 40．0%削減 1ton当り** に設定据え置き。

【次年度の環境経営計画】
・ タイヤ空気圧チェックの呼び掛け。
・ タイヤ摩耗度の点検をしていく。（車検時）
・ 車内4Sの実施。

《軽油消費量の削減》

【次年度の環境経営目標】
・ 次年度の目標は、本年の評価結果を踏まえ、**基準年度の 30．0%削減 1ton当り** に設定する。

【次年度の環境経営計画】
・ タイヤ空気圧チェックの呼び掛け。
・ タイヤ摩耗度の点検をしていく。（車検時）
・ 車内4Sの実施。

《灯油 及び LPG使用量の把握》
・ 使用量の総量を把握し、負荷のチェックシートへ織り込みます。

（3） CO2排出量削減の全体目標としては、R5年度より 3箇年 基準年度の **12．2%削減** で設定していたが。
R7年度以降の目標値として、排出総量、及び 製品重量 ton当たり換算値にて、基準年度比 **15．4%** に変更設定。
軽油消費量の削減目標の変更に伴い、CO2削減の数値も変更する。

4． 水使用量の削減（節水）

【次年度の環境経営目標】
・ 次年度の目標は、本年同様、**基準年度の 2．0%削減 従業員1人当り** に設定。

【次年度の環境経営計画】
・ 水漏れ等異常（水道機器の破損他）情報の吸い上げ。
・ 水漏れなきかメーター定期チェックを実施。
・ 洗車時の取り決め。水道出しっぱなし厳禁。

5． グリーン購入への取組

【次年度の環境経営目標】
・ 次年度の目標は、事務用品費に占めるエコマーク商品の比率 **90%** 以上。

【次年度の環境経営計画】
・『まずはエコマークの有無をチェックする』 を継続的に実行する。
・ 次年度の目標は、本年同様 に設定。（取組み項目とすることは継続していく）

6． 環境経営 教育の実施

【次年度の環境経営目標】
・ 社内全体教育の実施。（定期教育としては、**年1回 実施目標**、業務計画との調整をし全員参加を目指します。）

【次年度の環境経営計画】
（1） 認証継続を対外的にアピール。
（2） スクラップ系の分別の徹底について。
（3） 緊急事態の想定と対応策の周知徹底。
（4）『環境経営方針』カードの携帯の確認。

7． 化学物質使用量の定期的把握

【次年度の環境経営計画】
・ 年間の塗料使用量の把握は実施する。 物質毎のDATA取りの継続。
・ SDSシートの再整備。

(8)環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟などの有無

1. 環境関連法規とその遵守状況 (R6年度)

法規等の名称	適用対象	法規のあらまし・遵守内容	当社に於ける状況	遵守状況 (確認日) **R6. 8. 18**
① 愛知県条例 (県民の生活環境の 保全等に関する条例)		・事業活動に伴い発生するばい煙、汚水 廃棄物等の処理、その他公害を防止し 自然環境を適正に保全する為に必要な 措置を講ずる責務を有する。 ・アイドリングストップを周知する為の 措置を講ずること。	・騒音・振動規制は 豊田市都市計画法に 準ずる。 下記 ③項、④項で記載。 ・アイドリングストップを呼びかけるカンバン掲示。	遵 守
② 浄化槽法	浄化槽	・保守点検及び清掃の義務 ①保守点検 3ヶ月毎 4回/年 ②定期清掃 1回/年 ③法定検査(11条検査) 1回/年	・指定業者により定期的に点検を行っている。 (点検記録表をファイル保管) ①保守点検を3ヶ月毎、年4回 実施。 ②定期清掃は、実施済み。 ②本年度の法定検査(11条)については、実施済み	遵 守
③ 騒音規制法	特定施設	・騒音の規制区域に指定されているか ・施行令 別表第1に示す著しく騒音を 発生する特定施設の有無	・豊田市に於ける都市計画法では市街化調整 区域にある。 市の環境保全課を訪問し特定施設の確認をし **'09. 2. 23付** 対象となる5設備について 届出書類提出済。	遵 守
④ 振動規制法	特定施設	・振動の規制区域に指定されているか ・施行令 別表第1に示す著しく振動を 発生する特定施設の有無	同 上	遵 守
⑤ 廃棄物処理法	産業廃棄物	・適切な収集運搬業者ならびに処分業者 の選定。 ・マニフェストの管理 ・産業廃棄物管理表交付等状況報告書	・処理業者と「産廃収集運搬・処分委託契約」を 結び適正処理をしている。 ・処分業者の許可書の確認。 ・マニフェストの管理と5年間保管。 ・産業廃棄物管理票の交付状況等報告書提出。	遵 守
⑥ 愛知県条例	処分委託先の 確認	・処分先の定期確認	・㊊取得以外の処分先の定期現地確認の実施義務 ・㊊の場合は、各情報による確認で可	遵 守
⑦ PRTR法	指定化学物質	・指定化学物質の取扱量が規定内か (年間取扱量が1ton以上の事業所) ・常時使用する従業員が21人以上か	・指定化学物質の取扱量は規定に該当せず。 ・常時使用従業員 **21人 以下**。 該当せず。	該当せず
⑧ フロン排出 抑制法	第一種 特定製品	・業務用空調冷凍機器に対する 点検の有無。	・対象機器6台、圧縮機定格出力7. 5kw以下。 ・自社による『簡易点検』【目視による外観点検】 を実施し、記録を保管する。	遵 守

2. 環境に関連する法改正や新規条例など関係機関等の情報を随時確認します。(法令確認日 : R5年 8月 21日)

3. その他、ユーザー等からの環境関連要求事項として

ユーザー構内へ乗り入れる業務用車両について、油漏れ等の無い事の事前チェックを実施する様、求められています。
業務用車始業点検にて自主チェックするよう、様式を定め、実施しています。

4. 過去3年間において、環境関連法規の違反、訴訟等はありませんでした。
本年度の社内評価の結果、法令違反が無いことを確認致しました。 又、近隣からの苦情もありませんでした。

（9） 代表者による全体の評価と見直し・指示

環境経営管理責任者による見直しに必要なコメント	作成者 ： 事務局　中村浩克
	作成日 ： 令和 6年 9月 13日

1．環境経営目標の達成状況

① 各取り組み項目に対する実績の評価では

・ 水使用量の削減で 評価× で未達成となった。その他の項目では ○

産業廃棄物（廃プラ）の処理は、年度の跨ぎにならぬよう処理を実施。年度内で必ず処理をしていく。
各年に於いて排出する量的な平準化は困難と判断しています。

② CO2排出量の削減にいては、原単位評価としては、基準年度比では ○ となっている。
総量の評価では **28．7% 減** である。
現状の目標値を 次年度は**15．4%減** で設定変更して行きます。

2．環境経営計画の実施・運用結果

① 各取り組み項目とその目標に向けての活動を継続して行きます。
② ea21に関する取組み内容については、社内会議などで逐次連絡していきます。

3．外部・内部からの環境関連の苦情や要望

本年度（R5年8月～R6年7月） 外部からの苦情、要望事項は特にありませんでした。

代表者による変更の必要性の判断	評価見直し者 ： 中村 浩克
	記載日 ： 令和 6年 9月 17日

次年度以降の目標、取組、環境経営システムをどのように変更すべきか検討し問題点を明確にする

1．環境経営方針の変更　□有・■無
2．環境経営目標の変更　■有・□無
3．環境経営計画の変更　□有・■無
4．実施体制の見直し　□有・■無

◎ 変更の場合は必要な具体的指示事項（その他）

取組み事項の評価で未達成×となった項目は、要因を解析し、次年度の活動へ反映していく
ようにお願いします。

目標の中で軽油消費量の削減について 本年の結果を踏まえ、次年度目標を 30%減 として設定。
それに伴い CO2の削減値も 15．4%減 に設定し直すこと、了解しました。
新しい目標値に対して、チャレンジしてください。

システム全体や各取組み項目は、現状の内容を継続していく事で可と判断しています。
その他、変更が必要な項目が発生した場合は、内容を検討し、指示をしていきます。

本書の保管期限 ： 2年